



第56号

2020年10月

発信元：地域連携室

医療法人社団 広恵会 春山記念病院

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-24-5 TEL 03-3363-1661 FAX 03-3371-1021
<https://www.haruyama-hosp.com> e-mail : info@haruyama-hosp.com

腰部脊柱管狭窄症

整形外科
中村 範子

腰部脊柱管狭窄症は、骨、靭帯、椎間板などの加齢性変化により、脊髄の通り道である脊柱管が狭くなることで、神経が圧迫されて発症する疾患です。50歳代以降に増え始め、高齢者に多くみられる疾患です。

以下のような症状がみられたら脊柱管狭窄症かもしれません。

① 間欠性跛行

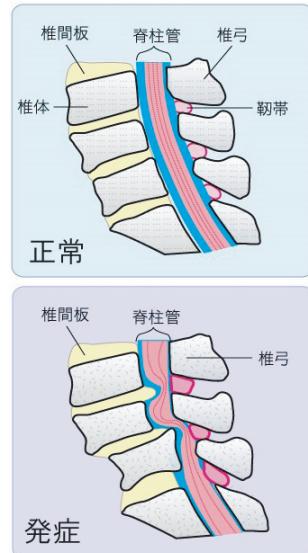
しばらく歩くとお尻から足にかけてしびれや痛みが強くなり歩けなくなります。または、足の締め付けられるような感覚や脱力で足が出なくなり歩けなくなります。姿勢によって症状が変化することが特徴です。前かがみになったり座ったりすると楽になって再び歩けるようになります。このようにして歩行と休息を繰り返すことを間欠性跛行と言います。

② 感覚障害

お尻や下肢の痺れ、鈍い、冷たいと感じたりすることがあります。稀に肛門周りの痺れやほてりを感じることもあります。

③ 膀胱直腸障害

比較的稀ですが、尿や便を自分で出せない、漏らしてしまう、残尿感が残ることがあります。



腰部脊柱管狭窄症の治療には、保存療法と手術療法があります。

保存療法とは手術をしない治療です。痛み止めの薬や、障害された神経の血液の流れを良くする薬を、飲んだり点滴したりすることによって症状が改善することができます。長期間保存療法を行っても症状が改善しない場合、その症状によって日常生活に支障をきたしていれば手術療法を検討します。

整形外科では、症状の強さや、その症状でどのくらい普段の生活に支障をきたしているかをお聞きした上で、レントゲン検査やMRI検査等で実際の狭窄の程度を確認し、治療法を選択します。膀胱直腸障害がある場合、歩行障害が進行している場合には早急に治療が必要となります。早めに整形外科を受診し、相談してください。

新型コロナウイルスの 検査を知ろう！

PCR

抗原

抗体

新型コロナウイルス感染症の収束がみえないなかメディアなどで様々な検査方法を耳にする事も多いかと思います。

今回はPCR検査・抗原検査・抗体検査の違いについて説明します

● PCR検査 PCRとは『Polymerase Chain Reaction（ポリメラーゼ連鎖反応）』の頭文字をとった略称です。 ウィルスから遺伝子を取り出し「ポリメラーゼ」という酵素によって元の遺伝子を増やし、そのウィルス遺伝子があるかどうかを調べる検査です。

● 抗原検査 抗原とはウィルスや細菌などの表面にある、免疫反応を引き起こすタンパク質の事を言います。 抗原検査とはこのたんぱく質があるか調べ、ウィルスに感染しているかを判断する検査です。

● 抗体検査 抗体とは免疫グロブリンというタンパク質のこと、体内にウィルスや細菌が侵入してきた時に、そのウィルスや細菌を排除しようとします。 抗体には、感染初期に作られ比較的早い段階で消失するIgM抗体と、感染の後期に作られ比較的長い間体内に存在するIgG抗体があります。 抗体検査ではIgM抗体、IgG抗体があるかを調べて、ウィルスや細菌に感染していたかを判断する検査です。

新型コロナウイルス感染症で一般的に行われている検査を表にしました

	PCR検査	抗原検査（簡易キット）	抗体検査（簡易キット）
検出する物	ウィルス遺伝子	ウィルスのたんぱく質	ウィルスの質抗体(免疫) IgM/IgG
検体	鼻咽頭・唾液など	鼻咽頭	血液
採取方法	鼻の奥に綿棒を入れる容器に唾液を取る	鼻の奥に綿棒を入れる	指先を針に刺して数滴の血液を採取する
測定時間	数時間～数日	15～30分前後	15分前後
陽性の場合	体内にウィルスが存在	体内にウィルスが存在	過去にウィルスに感染又は体内にウィルスが存在
精度	ウィルス量が少なくても検出可能 ※検出感度は最良(70%)	一定以上のウィルスが存在した時、検出可能 ※発症から2～9日まで	様々な種類が流通しバラツキがある ※他のコロナでも陽性になりうる

どのような検査でも良い点、悪い点があります。 検査をするタイミングなどで必ずしも陽性が陽性と出ない事もあります。 検査を正しく理解し、体調が悪い時には外出を控え、新型コロナウイルス感染拡大の防止につとめましょう。